

## 港区学童巡回相談 報告



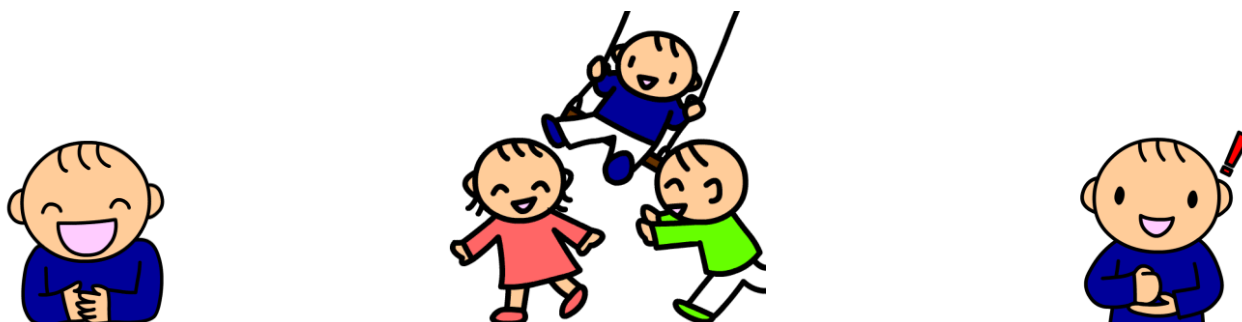
本校では、毎年港区からの委託を受け、気になる子供の支援について、観察とカンファレンスを行っています。一時間ほど該当の子供の様子を見た後、見立てをお伝えし、職員の方と一緒によりよい支援の方法を考えていきます。

先日もある学童クラブを訪問しました。夏休み中ですが、たくさんの子供たちが来ていてにぎやかです。友達と集まりカードゲームや製作活動をしている子たち、一人で本を読んでいる子、宿題に集中している子など、それぞれの過ごし方をしています。にぎやかな中でも、雑然としている様子はなく、決して広くはない部屋の中ですが活動の場所を分けたり、約束事を分かりやすく掲示したりと工夫されていました。多くの学童クラブが、子供たちにとってのよりよい居場所になるように工夫されていることがよく分かります。

今年度は、相談希望の依頼件数と施設数が増えました。学童クラブという複数学年で人数の多い集団の中で、過ごしづらい子供たちも少なくないようです。学童クラブ職員の方々は、来館している子供たち一人一人の様子を観察し対応されていますが、その対応に迷い、どのようにしたらいいかわからないこともあると思います。特別支援学校の教員が一緒に対応策を考えることで、何かのヒントになり、「やってみよう」と積極的に取り入れられています。

特別支援教育の理念として、「障害のある幼児児童生徒への教育にとどまらず、障害の有無やその他の個々の違いを認識しつつ様々な人々が生き生きと活躍できる共生社会の形成の基礎となるもの」とあります。特別支援学校の教員の取り組む手立てや工夫がされている授業や活動は、全ての子供たちにとっても分かりやすい授業・活動であると思っています。もうすでに浸透しつつある「ユニバーサルデザイン」など、全世界共通の誰が見ても分かりやすい環境構造が広がっています。

子供たちの大事な居場所を作るために、日々取り組んでおられる学童クラブ職員の方の相談窓口として、これからも連携を深めていきたいと思っています。



## 【子供たちの成長を見守るさまざまな視点】

アメリカンインディアンの子育ての四訓を御存知ですか？

1. 乳児はしっかり肌を離すな
2. 幼児は肌を離せ、手を離すな
3. 少年は手を離せ、目を離すな
4. 青年は目を離せ、心を離すな



というものです。私は、これまで様々な教育論や子育てマニュアルなどを目にしてきましたが、この四訓を見て、なにかがストンと落ちる感覚がありました。

1. 乳児期は、基本的信頼感を育む大切な時期です。身体的にも未熟なのでしっかりと肌を付けて子供を守ります。
2. 幼児期は、体を自分の思い通りに動かせるようになります。様々な感覚を発達させるには、たくさん動いてたくさんの物に触れる必要があります。子供が思い通りに動けるように肌を離しますが、まだ手助けが必要なので、手は離すなということになります。
3. 少年期には、自分のことは自分でできるようになる時期なので手は離しますが、困ったときには手を差し伸べられるように目を離さないことが必要です。
4. 青年期は、目を離さない(見られている)ことを「見張られている」と捉えて嫌がります。ずっと見ていたい気持ちを抑え、「いつでも味方だよ」「応援しているよ」と心で寄り添うことが大切です。

4つの時期の成長は、どれも子供たちの自立へ向けた大切なものです。それを見守る大人は、保護者だけではありません。学校では教員が、関係支援機関では支援者が、地域では近所の大人が子供たちを見守っています。みんなが同じ視点で見守る必要はなく、様々な視点や意見があってよいと思います。子供の一人一人の発達に応じた見守りの視点があり、それぞれに合った方法があるのです。大切なのは、以前の「つなぐ」で本校教諭の飯干による「安全基地」のコラムにあるように、私たち大人が、子供たちの心の「安全基地」でいられるよう、子供たちをよく見てその発達段階や特性に応じた見守りをしていくことなのです。

子供たちの意欲や幸福感を高め、自己肯定感や自己有用感を育ていけるといけるような見守りをこれからも一緒に考えていきましょう。

相談支援部担当主幹 岩本 真奈

## ◆校内の保護者の皆様からの御相談をお受けいたします。

コーディネーターが御家庭での子育てのお悩みなど、一緒に考え、解決していけるよう御相談に対応しています。担任を通じてお電話や連絡帳にて、御相談ください。

